

「リスクへの自覚を促す教員研修教材」シリーズ

◆ 研修の進行を担う先生方へ

本研修シリーズは、「不祥事を身近なものとしてとらえる」「もしかしたら自分もやってしまうかも…」などといった**リスクへの自覚**を目的としています。日常に潜むリスクを認識し、具体的で実行可能な行動を考えるべく、本ガイドを「短時間でも考え甲斐のある研修」の一助としていただければ幸いです。

◆ 時間配分とグループ編成

各ワークは合計 10 分程度としていますが、各学校の状況に応じて、5～20 分ほどの範囲でアレンジいただけます。グループ編成は、3～4 人一組を基本としています。学年ごと・教科ごと・年代ごとのグループにしてもよいですし、これらを混合させた多様なメンバーのいるグループにしてもよいでしょう。

飲酒運転のリスク ver.

時間	グループワークの手順	進行のポイント
3分	1. これからのライフキャリアを考えよう ◆ 「もし自由に3日間を過ごせるとしたら、どんなことをして楽しく過ごしますか？どんなことにチャレンジしたいですか？ワークシートに記入してください」	◆ まず、自分のライフキャリア（余暇、家庭、仕事といった生涯にわたる役割や経験の積み重ね）について考えさせる。
5分	◆ 「では、余暇の過ごし方について、ワークシートを見せ合いながら、グループで共有してみましょう」	◆ 話し合いやすい雰囲気づくりのため、各自自由に発想させ、議論させる。
2分	◆ 「充実した余暇やライフキャリアを失わないようにするため、今日はリスクについて考えてみましょう」	◆ ライフキャリアを損なわないようにするという目的のもと、リスクを自分事として考えていく 、という趣旨が伝われば OK。
4分	2. 飲酒運転に“なってしまう”としたら？ ◆ 『『この条件・環境が揃ったら、もしかすると私も…』と思うような、自分が飲酒運転をすることになるシナリオを考え、ワークシートにチェックを入れてください』	◆ 自分が飲酒運転に “なってしまう” ときの 条件・環境・経緯 を考えられるかが重要。
6分	◆ 「ワークシートをグループで共有してみましょう」	◆ ワークシートの選択肢以外で、「こんな飲み会で…」「こんな条件が重なれば…」という考えがあれば、書き足させても OK。
3分	3. 自分が気をつけるための具体的な行動は？ ◆ 「飲酒運転のリスクを減らすため、考えたシナリオを踏まえて、自分が気をつけるための具体的な行動を考え、ワークシートに記入してください」	◆ 「飲む量を決めていたのに…」 「 車で走行を 得なかった」といった状況に直面したときにどうするかを想定させる。
5分	◆ 「ワークシートをグループで共有してみましょう」	◆ 自分が普段行っている対策やこれから試したい方法をグループで議論させる。
2分	◆ 「飲酒運転のリスクに対し、“飲み過ぎない”ではなく、自分にとって何が高リスクの条件・環境となるか、その状況に直面した時にどうするかを考えておきましょう」	◆ グループで共有させた後は、全体で共有する時間をつくってもよい。

職員間ハラスメントのリスク ver.

時間	グループ活動の手順	まとめのポイント
2分	<p>1. どこからがハラスメント？</p> <p>◆ 「1～5の言動について、自分よりベテランの教員からされたらイヤな順に並べ替えて、ワークシートに記入してください」</p>	<p>◆ イヤだと感じる言動が人によって違うことを実感させられればOK.</p> <p>◆ グループで共有させた後は、職員全体で共有する時間をつくってもよい（たとえば、最もイヤな言動（1番左の枠）の番号をそれぞれ挙手させ、どのくらい意見がわかれるかを確認する、など）</p>
5分	<p>◆ 「ワークシートをグループで共有しながら、イヤな順とその理由もあわせて議論してみましょう」</p>	<p>◆ よりよいコミュニケーションのために、職員同士でイヤなことを共有し合い、理解し合うという趣旨が伝わればOK.</p>
3分	<p>◆ 『私はイヤじゃないから、他の人もイヤじゃないだろう』という発想に陥るのが危険です。目の前の人はどうなことがイヤなのかを理解していくことが大事ですね」</p>	
2分	<p>2. 傍観者ならどこから対応する？</p> <p>◆ 「皆さんが、職場で①～⑤の状況を見かけたとして、自分ならどうしますか？5つの状況に対し、4つの行動の選択肢の中から、[自分ならこうする]行動に○を、[場合によってはこうする]行動に△を記入してください」</p>	<p>◆ 議論を深めるために、5つの場面は敢えて「やや抽象的」な状況にしている。例えば、①の場面なら「どんな怒り方によって自分の行動が変わる」ことが考えられる。</p> <p>◆ したがって、△を書いた場面は、どのような場合にどのような行動をとるかを議論させる。</p>
6分	<p>◆ 「ワークシートをグループで共有してみましょう」</p>	<p>◆ 状況ごとに、人ごとに、捉え方や行動が異なってくるのはもちろん、どのような状況から対応すべきかを議論できればOK.</p>
2分	<p>◆ 「ハラスメントのリスクに対しては、場面や状況ごとにどこから対応が必要になるかという基準を、チームや組織で決めていきましょう」</p>	
3分	<p>3. 自分が気をつけるための具体的な行動は？</p> <p>◆ 「職員間ハラスメントのリスクを減らすため、または対応するために、自分が気をつけるための具体的な行動を考え、ワークシートに記入してください」</p>	<p>◆ 「自分が加害側にならないために」「自分が傍観者の立場だったら」という2つの側面から考えさせるとよい。</p>
5分	<p>◆ 「ワークシートをグループで共有してみましょう」</p>	<p>◆ グループで共有させた後は、職員間ハラスメントを自分たち事としてとらえさせるために、全体で共有する時間をつくってもよい。</p>
2分	<p>◆ 「職員間ハラスメントのリスクに対し、“自分はイヤじゃないから”ではなく、目の前の人は何をイヤがるのかを想像したり実際にたずねたりして理解していきましょう。また、自分が傍観者のときも、早期発見と迅速な対応につなげるために、どこから対応が必要になるかをチームや組織で決めていきましょう」</p>	<p>◆ イヤなことを“わかったつもり”から脱却させていくことと、チーム・組織としての対応のスタートラインを議論することができればOK.</p>